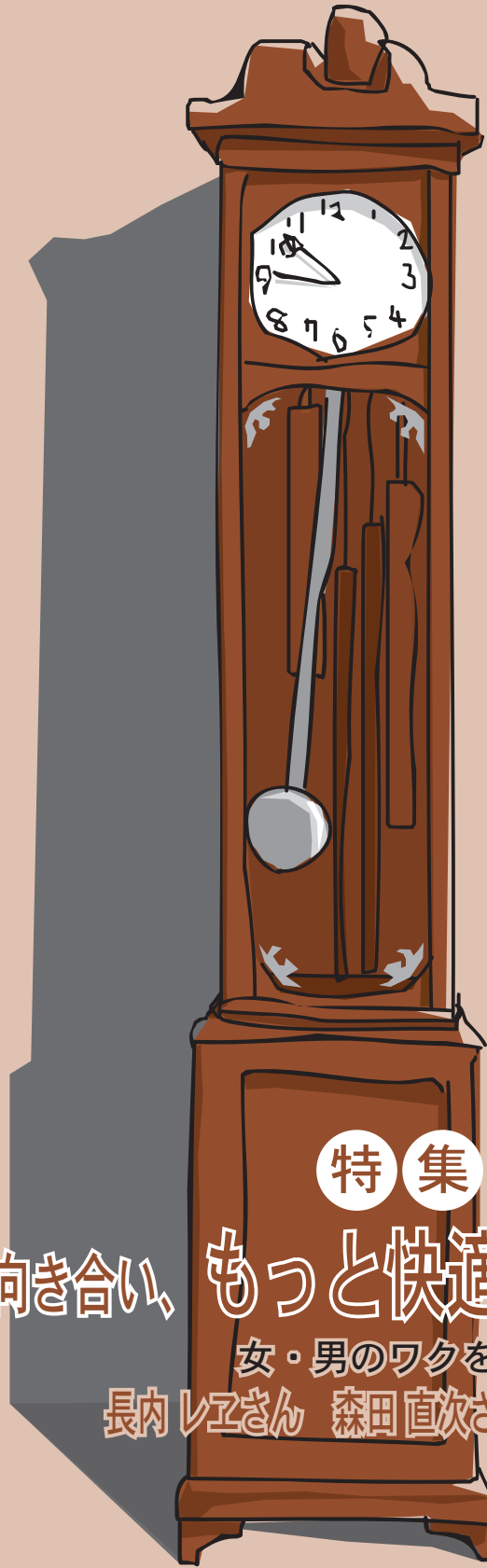


# まなこ

2001  
No.41

企画・発行 武蔵野市児童女性部児童女性課女性計画係



共遊び  
家族や友人を誘って、図書館へGO!

ちょっとボランティア  
災害時の支援マップ作り 伊藤雪子さん

知りたい・聞きたい・考えたい  
ADL(日常生活動作能力)対応型高齢者体操研究会  
大久保洋子さん

## 特集 二十一世紀の男女平等

### 加齢と向き合い、もっと快適に暮らすためには?

女・男のワタを越えて行動する4人のメッセージ

長内レエさん 森田直次さん 水村七五三彦さん 佐藤聡美さん

### 男女平等?! 今・昔

## レポーター会議報告

最初に、編集長が41号のテーマについて説明した。「高齢社会を迎えようとしている男女が共に快適に年を重ねていくには、どのようなことが大切なのか」「21世紀の望ましい男女平等の姿を、高齢者の視点から考える」と同時に、男女平等の歴史を見直したい」「高齢者という言葉は、差別用語ではないと思う」「心身の衰えはどうしても避けられないが、素直に受け止めていくことで、より豊かな生活を送れるはず。生き生きと豊かに暮らしている60代以上の人も多い」

「2人の女性レポーターの発言には、大いに勇気づけられた。」「年を重ねることには、どうしてもマイナスイメージを感じてしま」

「30代女性」  
「男達が『おれは男なんだ』という不必要なプライドを捨てない限り、真の意味で男女平等は成立しない」

「政治的、社会的な意味で男女平等はあるが、男と女は同質という意味の男女平等はあり得ないのでは?」

「70代男性レポーターのこの発言から、育児休暇、病児保育など子育て支援や介護支援の問題へと発展」

「活発に、意見が交換された」

「働きながら育児や介護をしている女性にとって、男性の協力は不可欠だ」

「学校やコミセンなど、地域の中で高齢者と子ども達のふれあいの場を増やしていくことが必要だと思う」



「まなこ」41号の会議風景  
10月31日(火)  
午前10時～午後12時  
市役所第4会議室にて  
(構成 森 治美)

男とか女ではなく、男女が互いに思いやりの心を持って、各々の特性を發揮しつづつ協力していくことが真の男女平等につながるのでは?」

「まなこ」41号の「男の更年期」に関して男性にとつてはまったく関心のないテーマでした。あるのかわからないのか、知ったからと言っているものでもありません。男と女の社会的システムの違い、その不平等さを掘り下げるべきでは?」

「アンケートという市民の声を誌面に表出され、一工夫の努力のあとをうかがうことができ、みなさまの前向きな心持ちを感じました」

「まなこ」は、市の女性計画係が出版している情報誌ですね。読み応えがあまりない。男性計画係の「まなこ」はないのですか?」

広島県廿日市市 たみおまゆみ様

## 土屋市長とトーク&交流会

むさしのヒューマン・ネットワークセンターのさらなる発展に向けて!

### 情報エキスプレス!

平成12年11月15日、むさしのヒューマン・ネットワークセンターで開設2周年の記念イベントが開催された。

「女も男も、自分らしく暮らせるわたしたちの武蔵野市」を目指し、市民と市長が率直に話し合った。テーマは、女性パワーが結ぶ新しい世紀。進行役の岩城末子・小境範子の両センター運営協議会委員が、女性たちのパワーある活動や、そのための市の支援、市民と行政の協働等について市長に質問すると、「市の女性管理職員は今のところ部長1人、課長1人の2人だが、これからは能力とやる気があれば女性管



性の活躍ぶりは昔から。高度経済成長の当時、朝早く出勤して夜遅く帰宅する男と違い、地域を支えてきたのは女性達。PTAを母体に市の施策と深くかかわってきた。日本の女性問題は、インドやイスラム教国のように、宗教や社会的な背景を持つ深刻な女性差別というより、問題の解決に向けて共通のモノサシをつくらうという動きがある。だからこのセンターが、どんな役割を持ち、どんな施策への要求があるのか、具体的に示してほしい」と話した。参加者は、市へ積極的に提言できるよう実績を積み、今後の充実した事業展開に向けて思いを新たにされた。

## STAFF

レポーター 厚沢尚子・池見美貴子・印南幸子  
小川由華・長内レエ・加藤和子  
菊地一郎・木田アツ子・久慈平輝  
桑原照子・小林薫子・板井弘子  
末廣純江・橋戸薫・福岡みゆき  
星 詩子・細原弘雄・前野正江  
高壁正江・三浦直子・吉田史美  
渡辺美穂

取材・編集 倉内弘子・浜 俊子・本間則子  
森 治美・矢島幸子・向井一江

デザイン 日比康人  
印刷 コロニー東村山印刷所

☆ 初めに娘が生まれたとき、20歳までの予定を書いてみた。その頃21世紀は、はるかかなたに思えた。今年成人になる娘の姿に過ぎ去った日々を重ね合わせ、しばし余韻を奏しむ。(倉内弘子)

☆ 20世紀から、21世紀という歴史的な越年を、一大イベントのように、私は、はしゃいで過ごしたくない。せめて、静かな初参りで「戦争も天災もない、穏やかな暮らし」をお願いしよう。(浜 俊子)

☆ 21世紀だ! 『ストレスをガ・ハ・ハと笑い飛ばし、いろんなイタミは蹴つ飛ばし。楽しいことだけ抱え込む』素敵な笑顔の女性になりたいなあ。と思いつつ思春期の子どもとバトルしそうな予感がする。(本間則子)

☆ ファーストフードを食し、パソコンを友とする子ども達が健康に年を重ねていくのだろうか? 「食事は和食中心の手作り。出来るだけ自分の足で歩こう!」これが、2001年私の年頭所感。(森 治美)

☆ 取材で出会った人に話を伺いその人生に触れるたびに、自分の考えのワタが少し大きくなる。今年また、どれだけの人と出会い、そして、どれだけの贈り物ももらうのだろうか。(矢島幸子)

☆ 実家の父が入院。母も過労でダウン。片道2時間、手伝いに通う私を見て息子が言った。「母さん、捨てるでしよ」「何を?」「おんな」「...」鏡の中に性別不詳の私がいた。新春に軌道修正を誓う!(向井一江)



# 「まなこ」が選んだ 歴史・年表



- 一九〇四・明治三十七年 『日露戦争』 始まる（一〇五）
- 一九〇七・『義務教育六年』 に延長
- ☆（からゆきさん） 日本女性、シンガポールなどに253万人
- 一九二一・平塚らいてう等（青鞥社） 結成
- 一九二二・大正元年
- 一九二四・『第一次世界大戦』 参戦（一〇八）
- 一九一九・大阪市、日本初『公立託児所』開設
- 一九二二・（産児制限運動） 始まる
- ・文部省『産前産後給付休暇』訓令
- 一九三三・初（国際婦人デー）集会（東京）
- ・【関東大震災】
- 一九二六・昭和元年 ☆断髪流行（モボ・モカ）
- 一九二七・『金融恐慌』 始まる
- 一九二八・ちやぶちやぶ台、家庭に普及
- 一九二九・東京市『産児制限指導』
- 一九三二・『満州事変』 勃発
- ・（女子労働者参加スト） 増加
- 一九三二・旧日本軍、慰安所設置に関与
- ☆デパート火災から和服でもスロース着用
- 一九三四・冷害で（娘の身売り） 5万人以上
- 一九三七・『母子保護法』 公布（翌年施行）
- 一九四一・『日米開戦』（一四五）
- 一九四三・『学徒出陣』
- 一九四四・『学徒疎開』
- 一九四五・広島、長崎に原爆投下
- ・（新日本婦人同盟） 結成、会長市川房江
- ・GHQ、選挙権付与による日本婦人解放指令
- ・『選挙法改正』 女性参政権実施
- ・『女子教育刷新要綱』 大学男女共学
- 一九四六・大阪市『生理有給休暇』 承認
- ・戦後初『衆議院議員選挙』、女性初の参政権行使、女性候補者39人当選
- ・『日本国憲法』公布（翌年施行）男女平等明記
- 一九四七・戦後初（国際婦人デー）
- ・『教育基本法』公布、施行、男女共学
- ・『労働基準法』公布、施行、男女同一賃金の原則、女子保護規定
- ・刑法改正（姦通罪廃止）、民法改正（家制度廃止）
- 一九四八★『武蔵野市報』 第1号発行
- 一九五一・『対日講和条約』『日米安全保障条約』 調印
- ・生活難から児童の人身売買激増
- 一九五四★『三種の神器』 冷蔵庫・洗濯機・掃除機
- 一九五八・『売春防止法』 全面施行
- ☆シームレス stockings、即席麺発売
- 一九六〇・中山マサ厚生大臣就任
- 一九六一★ナプキン型生理用品発売
- 一九六三・（共働き増加）『カギツ子』登場
- 一九六四・『東京オリンピック』 開催
- 一九六七・男女同一賃金に関する『ILO100号条約』 承認、批准
- ・国連『婦人に対する差別撤廃宣言』 採択

## 特集

# 二十一世紀の男女平等

### 加齢と向き合い、もっと快適に暮らすためには？

人格を尊重することこそ平等

長内レエ 69歳 中町在住  
青森の旧家に生まれた長内レエさんは、今まで女だからという思いをしたことがないと言います。女だからとか女のくせにと言われた古いしきたりが強い地方にあって、陸上を続けてこられたのも、それを生かしたいと東京の大学に進むときも「自分の選ぶ道は自分で決めなさい」と両親に賛成してくれた。体育教師として45年教職に携わってきた長内さんは、それが自分の教育理念の基本だと感じている。「当時は1学年50人クラス。運動機能、体力、思考が違いますから、それらを考慮に入れ、男女別と共通のカリキュラムで行っていました。何でも同じというわけにはいかないんです。校長先生の『責任を取り入れながら楽しい授業を目指しました。枠にはめて教育すると子ども達はそれ以上に成長しません。自由の中から何かを見つけるんです』親達とは父親も参加できる土曜の夜を選んで、月1回教育を語り合った。『主人公はいつも子ども達。例えば国語の知識を伸ばすためにどうしたらいいか、子どもの将来のために、母親の立場、父親の立場から意見する。そういう時間が親と教師の距離を埋めていたと思います。生徒達が気軽に立ち寄れるよう職員室はいつも開放していました。何より一人ひとりの人格を尊重すること大切にしたんです。これは男とか女とか、年齢に関係なく、すべてに共通することではないでしょうか』  
(文) 矢島幸子



展示会の絵の前で。

女の子は女の子らしくの風潮にも、両親は娘の生き方を認めた。女だから男だからにとらわれない、それは教育の原点。

旧民法（1896年公布）の家族制度の中で、長男として育った子ども時代。継ぐべき家から独立して、今は台所に立ち料理も得意！

相手を慈しむ心を忘れずに

森田直次 92歳 境南町在住  
森田直次さんは、明治41年大阪の商家に8人兄弟の長男として生まれた。当時は「かまどの灰まで長男のもの」と言われ、跡継ぎとしての教育、行儀作法などつけられた。家族構成は、明治生まれの両親と、暮れ生まれの祖父母との3世代同居。家の主導権は、稼働の父親が握っており、汁一菜があたりまえの食卓の中で、父親にだけはお酒と刺身などの馳走が並び、食べたそうに見ていると「これは子どもの食べるものではない」と諭された。母親は、女が結婚前の行儀見習いとして、格の高い家に奉公に出されるのが一般的な中、神戸の商社に勤めるほど活動的な人。当時は「変わり者」と言う評価だった。森田さんは母と死別する12歳まで、自由な発想で考えることを学んだ。成長して、一人前になることは独立すること、家出同然に20歳で東京へ上京。「銀座で洋品店を開業する3人の子は、男女の区別なく自由に育てました。また、時代も憲法が変わり、私のころの『男女席を同じゅうせず』の教育方針と比べて随分自由になりました。ただ受け継ぐ教養として、社会に尽くす人間になること、他人に迷惑をかけること、人に対する思いやりや心遣いなどは教えました。最近、子どもが絡む痛ましい事件を目にするたび、日本人がずっと持ち続けて来た『慈しむ心』という教養はどこへ行ってしまうのかと寂しく感じています」  
(文) 矢島幸子



17歳年下の妻と、交替で台所に立つ。毎日の会話の始まりは「今日は何を食べようか」

益も正月もないけれど

## 女・男のワクを越え、信念を持って行動する 4人のメッセージ、届けます。

益も正月もないけれど

佐藤聡美 41歳 吉祥寺北町在住  
特別養護老人施設『吉祥寺ホーム』の喫茶室で佐藤聡美さんにお会いした。「今日は早番だったのですね」と早口で語りながら缶コーヒーを一口。この施設内の吉祥寺ナースィングホーム（入居者50人、シヨートステイ3人）で働き、昨年介護福祉士試験に合格した。「『実家は鹿島島の片田舎ですから』女の子は高校まででいい、すぐに嫁に行くから』があたりまえ。なぜか私も納得してました。昔からお風呂は男が先、介護は女の役目、と本能的には今も変わっていません。女性達もそれが『風習だ』と受け止めてやっています」と語る彼女は2人の子どものお母さん。二世帯住宅に義父母や9歳の祖母達と住んでいる。  
□ 6年前ケア・ワーカーになり、6年連続で表彰された。夫が家事をしてくれるので、嬉しいのは、これを楽しみにかえてくれたことですね。例えば、作った料理の写真を撮り『男の料理』としてホームページに載せたり、ヘルシー料理にも挑戦しています。「今は義父母はもちろんだ、祖母も健康なので、夜勤のときなど頼れることが有り難いです。こんな家族の関係を子ども達に見せるのも教育だと思っんです。男、女でなく、やれる方が手を出す。これができるなら、みんなが生きやすくなるでしょうね」  
(文) 浜 俊子



ジャージの仕事着から、着替えて。急いで着替えて、でもいつか介護の日が来るだろう、それなら今から飛び込んじゃえ」という気持もあつた。

まだ残っている古いしきたりを少しずつでも変えていきたい！男女平等の社会は、そこから実現していくと思う。

地域の中に助け合いのシステムをスタートさせる。女も男も参加して、持てる力を発揮すれば21世紀はもっと住みやすくなる。



昔と現在の良いところを取り入れながら、市民社協のシステムが確立されていくのですね。

直しては心を引き締めている。

水村七三彦 82歳 吉祥寺本町在住  
「年寄りを敬い、親には孝行の思想が、なくなってしまう。人格の尊敬、他人の痛みも判るのが民主主義的な。家族も、もっとわかり合うためにはできるだけ一緒に食事をしてコミュニケーションを持った方がいいのでは」と今どきの家族関係を嘆くのは、歯科医で『武蔵野市民社会福祉協議会』（市民社協）の会長も務める、水村七三彦さん。かくしゃくとした話ぶりに信念を感じさせる。  
□ 水村さんは、男性上位の時代に親から「男は勉強第一！」と言われていた。  
□ 学校を出た直後に歯科医の父親が亡くなり、跡継ぎとして医業を潰さないために朝から夜中まで働いた。「男を重んじることは、男が家族を養う責任も課せられているのだ」と。  
□ 市民社協に携わって7年、人々とかかわりが希薄になっていて、困ったときの、近所同志の助け合いは、大切な暮らし方だと思っっている。  
□ 21世紀に向けて市民社協では『ふれあいネットワーク』づくりを進めている。「地域福祉活動推進協議会や他の福祉関連団体など市民の手を借り、安心して暮らせる町にするのが念願です。介護保険のサービスは太い血管、それを補うために男も女も一緒に力を出し合っって、毛細血管になれば」  
水村さんの心の師は『限りなき愛、ゼノの生涯』のゼノ修道士や『蟻の街のマリア』の北原裕子、日本のボランティアの草分けとなって尽くした人達の本を、ときどき読み直しては心を引き締めている。  
(文) 浜 俊子





- 一九六九・厚生省『0歳児指定保育所設置』承認
- 一九七〇・日本初「ウーマン・リブ大会」開催
- 一九七二・【沖縄返還】
- 一九七三・【第一次オイル・ショック】
- 一九七五・『国際婦人年世界会議』メキシコで開催
- 一九七六・緒方貞子、国連代表部公使になる
- 一九七七・『民法・戸籍法改正』離婚後の性の選択自由化
- 一九七七・『都婦人相談センター』（かけこみ寺）開設
- ☆使い捨て紙おむつ発売
- 一九七九・東南アジアからの出稼ぎ女性（じゃばゆきさ）急増
- 一九八一・労働省「パートバンク」設置
- 一九八四・戦後初離婚家庭が死別家庭を上回る（厚生省）
- 一九八五・『女子差別撤廃条約』批准
- 『男女雇用機会均等法』公布（翌年施行）
- ・日本女性の平均寿命、世界初80歳を越す
- ☆『婦人行動計画関連事項担当』決定
- 一九八六・西友ストア、男性社員「育児タイム制度」
- 一九八七・中学校の家庭科、男女必修（共修）導入
- 一九八八・労働省「育児休業利用奨励金制度」創設
- 一九八九・平成元年
- （セクシャル・ハラスメント）問題化
- ☆『児童婦人部児童婦人室婦人問題担当』設置
- 一九九〇☆『女性親善使節団』派遣（〜九五）
- ☆第一回「男女共同参加市民のつどい」開催
- ☆『武蔵野市（第一次）女性行動計画』策定
- 一九九一・男性も対象の『育児休業法』成立（翌年施行）
- ☆女性情報誌『まなこ』第1号創刊
- ☆『女性行動計画推進市民会議』発足
- 一九九二☆『女性関係行政推進会議』開催
- 一九九三・『パートタイム労働法』施行
- ・政府、元慰安婦に正式謝罪
- ・国連『女性に対する暴力撤廃宣言』採択
- 一九九四・総理府「男女共同参画室」設置
- ・宇宙飛行士向井千秋、宇宙へ
- ☆『むさしのヒューマン・プラザ』基本構想検討委員会発足
- ☆第一回「トーク&シネマ」開催
- ☆『児童婦人部児童婦人室婦人計画係』改称
- 一九九五・【阪神淡路大震災】
- ・『女性のためのアジア平和国民基金』元慰安婦に対する償い事業等発足
- ・『第4回世界女性会議』北京で開催
- 一九九六・『優生保護法』を『母体保護法』に改正
- ・『男女共同参画2000年プラン』策定
- （ストーリー）（援助交際）問題化
- ☆『児童女性部児童女性課女性計画係』改称
- 一九九七・『男女雇用機会均等法』等整備法案成立（九九年施行）
- 一九九八☆『武蔵野市第二次女性行動計画』策定
- 一九九九・『男女共同参画社会基本法』公布・施行
- 二〇〇〇・『ストーリー法』成立
- 二〇〇一☆男女平等情報誌『まなこ』第4号発行（構成・本間則子／森 治美）

あなたの周りで、性差別や年齢による差別を感じたことは？

- ある。掃除会社のセールスらしく、安くするのでお試しくささいとしつこい電話。何度断っても納得しないので「じゃ、やります」と返事をした。こちらの年齢を言うと、高齢世帯はお断りと切られ、悲哀を感じた。 76歳 女性 中町
  - ある。女性が私を無視するようになった。 73歳 男性 吉祥寺北町
  - ある。夫を亡くして年金等の手続きをしたとき、私自身に身分証明がないことに気付かされた。近所の方に証明してもらったが、男は社会的身分を死ぬまで持っていることを知った。 68歳 女性 吉祥寺北町
  - ある。戦前の軍国主義と戦後の民主主義の二本立て教育を体験。戦前は『男女七歳にして席を同じゅうせず』で別学だった。したがって男女は役割の区分に相違があるだけで性の差別とは思っていなかった。 69歳 男性 緑町
- 65歳以上 65歳以下
- ある。若いころ「女のくせに」「女なんだから」は日常茶飯事。それに甘えていた自分がいたのかも。今は性差ではなく、やれる者がやればいいと思っている。 58歳 女性 緑町
  - ある。子どものころから「女の子にはやさしく」「女の子を先に」と教えられ女の方が得だと思ってきた。 54歳 男性 在勤
  - ある。ある会議で意見を述べた私は、高齢の男性から「孫ほどのご婦人が偉そうに…」と言われた。10年も前になりますが、パミュードズボンをはいていたとき「女を売り物にしている」と。こちらも、やはり親ほどの年齢の男性だった。 50歳 女性 西久保
  - ある。入社してみたら、あまりにも男女の仕事内容に差があった。私の力では対処できなくて、結局退社した。 34歳 女性 境

今

祖母が苦手！

レポーター 福岡みゆき 42歳／西久保 スキカケン

祖母は、3回襲われましたが、今は杖を突いて散歩しながら、俳句を詠んでいます。

祖母は、倍好奇心旺盛なところは昔からで、技術提供者としてベトナムへ派遣されたときには、サイゴンで小学校に入学して、フランス語の勉強を始めました。42年前、54歳のときです。11歳年下の祖母は「3人の子とも成長したので心配なく」と6年間、現地へ書籍や好物を送りながら家を守ったそうです。

その後は82歳までフランス語の技術翻訳をしていました。「何を始めるにも時期が遅いということはない」の精神は、祖母から教えられた生き方です。今は祖父が「おばあちゃんのおかげで僕が幸せだ」と言葉に、祖母は「まだまだ頑張る！死んだらだめよ」と言う。夫婦の生活も、とってまかっさいいと思えます。

妻元氣 われを叱咤す 去年今年

祖父の最近の句です。

母のことを思えば

レポーター 星 詩子 36歳／境

私の母は今56歳です。学校を終えることなく、一日中家事に追われていました。外の世界を知らなかったため、そんなものだと何の疑問も持たず、夫や舅姑に仕えていたようです。

孫の私が祖母の了解をもらって、たまに喫茶店に連れ出すと、母はとても喜んでくれました。私の方は、ただケーキを食べたかっただけなのですが…

祖母の老いていく姿と在宅介護をする母の姿から、私も嫁として、年齢を重ねることでの姑との関係に、対処できていると思えます。母の環境を思うと、現在姑と暮らしている、出かけるのを認められる状況は、有り難いですね。

私自身は、子どもを男だから女だからというのでなく、個性を大事に育てています。

こういふうとつづ つの積み重ねで、子ども達の未来も、変わるのではないのでしょうか。

ゆったり過ごせる貴重な時間

レポーター 吉田史美 28歳／吉祥寺北町 ヒトミ

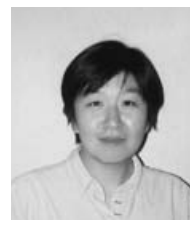
かつて写真屋に勤務していたことがある89歳の祖父は、今も小さな体でカメラを持って、風景などを撮り続けています。

私が、念願の一眼レフを購入したとき、祖父は「後継者ができた」と喜んで、技術的なことまでいろいろ教えてくれました。

最近私は仕事面で、男性に對し体力的な差を感じています。周りからも『女だから・若いから…』といった目で見られているような気がします。

でもそこでひるまず、誰からも何も言わせない力をつけるため、今、通信大学の文学科で環境論を学んでいるところ。将来は翻訳や物を書く仕事に挑戦したいと考えながら、忙しい時間をやりくりする毎日です。祖父母と一緒に過ごす時間も、ゆったりと構えずにいられるひとときなのかもしれません。

同じ構図の写真でも、祖父の作品には『柔らかさ』があります。こんな私が追いつけるのはいつだろう…



あなたの親の世代、男女はどんな暮らし方をしていましたか？

- 夫婦2人で歩いて、絶対に並ぶことはなかった。食事、入浴など男性より先にすませることもなかった。 80歳 女性 西久保
  - 大正の終わりから昭和の初めにかけての時代、日常生活すべてが男性上位だった。 82歳 男性 吉祥寺本町
  - 戦前なので、男女平等という言葉さえ、考えられない時代だったのでは？ 76歳 女性 八幡町
  - 父親の母親に対する言葉遣いは命令調、母親の父親への言葉遣いは敬語調。 73歳 男性 吉祥寺北町
  - 明治生まれの母は、ことあるごとに「男は…男は…」で通してきた。したがって一人娘の私は常にこき使われていた。 69歳 女性 境南町
  - 男親が一家を養う全収入を得ていた。 70歳 男性 吉祥寺北町
  - 客観的に両親を見たとき、父は自由に友人知人と旅行や趣味を楽しんでいた。母が家を空けた覚えは、一度もない。長子相続の時代で食事の席、入浴の順など常に父と兄の都合で決まっていた。 68歳 女性 吉祥寺北町
- 65歳以上 65歳以下
- 両親は役割分業のカチで働いていた。父は経済能力を身につけ生活を支え、母は子を産み、育て、畑の仕事もしていた。お互い、尊重していたと思う。 50歳 女性 西久保
  - 両親が生きていれば100歳以上。日本史を学べば誰でもわかること。男女不平等はあたりまえ。 64歳 男性 吉祥寺南町
  - 女性は大学を出て生意気になるより、夫をたてて、賢い子どもを育て、家庭を守るかわい妻になるよう努力すべきと教育されていた。 42歳 女性 境
  - 母は私の前で、グチったことがない。子どもの服や着物を作ったり、料理を工夫したり、それなりの生活をしていたと思う。 54歳 男性 在勤
  - 今も平等ではないので、昔が平等であるはずがない。 34歳 女性 境

昔

男女平等?!今・昔

戦後、戸主にこだわ的家制度が廃止されました。戦禍をくぐり荒廃した日本を建て直してきた世代、その時代を知らない世代、みなさんに伺います。性や年齢に対する差別は？意識はどう変わっていますか？新世紀の課題を、ここから考えてみたいと思います！



# 知 聞 考 りたい きたい えたい

## 男女平等は自立が基本

高齢になっても心豊かに生きがいを持って、家族や友人、地域と交流し、自分らしく「過」せたら...  
「『自立した生活』の基本は、体と心の健康回復・維持にある」  
の持論を持つ、大久保洋子さんに話を聞いた。



大久保洋子さん

もちろん、介護される状態は回避したいし、できるだけ先に延ばす努力をお互いがすべきです。得意な分野でサポートし合いながら、二人の力が合わさればもっと自立の幅が広がります」  
「夫とは結婚当初から、財産はそれぞれが管理し、お互いの領域を尊重し合う生活をしています」  
「高齢者福祉は介護だけでなく、その人が望む生活を継続していきけるように、日常生活動作をサポートすることも大事だと実感した。」

◆ADL(日常生活動作能力)対応型高齢者体操の特徴は？  
一人ひとりの能力に合わせて行えるように工夫されている。  
体操の中に、日常生活の基本となる動きを取り入れていく。(横たわる、寝返りを打つ、起き上がる、立ち上がる、座る、歩く)  
高齢者に適さない動きを削いでいる。(立つて膝を伸ばしたまま腰を深く折る、首を後ろに曲げる)  
吐く息を強調した呼吸法を用いる。  
(取材 倉内弘子)



ADL対応型高齢者体操研究会  
●連絡先 〒180-8633 成蹊大学・大久保洋子研究室  
●TEL・FAX (37)3701

「これこそ当事者の私の知識が役に立つかも」早速、所属する四小地区の福祉の会に、「災害時の地域の支援マップを作ってみようか」と提案した。ある程度は市でも把握しているが、細部まで行き届かせるためには地域の協力が不可欠だ。すぐに会の賛同を得て、昨年6月、実行委員会を立ち上げた。まず、どれだけの人が助けを必要としているのか、地域のニーズを把握するために、障害児を持つ家庭、一人住まいの高齢者など9家族から申し出があった。拡大した地図にそれらの家を色分けで載せ(例えば障害者は赤、高齢者は青など)そこに近いボランティア数人と救助できる体制を組む。

## ちよんぽんぽん ボランティア

### 災害時の支援マップを作りましょう

伊藤雪子さん53歳  
(吉祥寺北町)

□ 昨今、各地から送られてくる災害の生々しい映像の中で、伊藤さんはある場面にクギづけになった。それは、自治体が全員避難命令を出していたにもかかわらず、重度の障害を持つ家に母娘が取り残されている事実を伝えている。

伊藤さんは3人の子を持つお母さんとして、24歳になる末っ子の息子さんは、先天性の重度の心身障害者。これまで何度となくボランティアセンターに協力してもらい、何かの形でお返ししたいとずっと思ってきた。



実行委員長の伊藤さん



『災害時避難支援マップづくり実行委員会』のメンバーのみなさん。

●連絡先 伊藤雪子  
TEL (21)1472  
FAX (21)1473

(取材 矢島幸子)

## トピックス

### 児童女性課女性計画係では

■平成12年度「女性フォーラムむさしの実行委員会」が発足、男女がともに生き生きと暮らせるまちづくりを目指して、フォーラムを開催します。公募により選出された市民7名の実行委員が、男女も一緒に子育てをテーマに、子どものために何が出来るのか、子どもにとって必要なことは何かを考えるパネルディスカッション「21世紀をにう子どものために、あなたとわたしができること」の企画・運営を行います。  
\*日時 平成13年3月4日(日) 午後1時～午後3時40分  
\*場所 武蔵野スイングホール11階 レインボーサロン(定員100名)  
\*保育付き  
\*詳細は2月1日号市報で  
■地域児童育成実施計画が策定されました。

Q.実施計画とは？  
この計画は子ども施策分野の具体的・専門的な計画書として社会状況や市の財政などを勘案しながら、子ども関連施策を総合的に推進するため策定されたものです。

Q.基本的な考え方は？  
(I)子ども自身のニーズを大切に(II)家族の絆を深める(III)地域で育てる(IV)自然の教育力を生かす(V)男女ともに子育てに参加する、の5点です。

Q.「男女ともに子育てに参加する」という考え方は？  
子どもの健全な育ちには父親と母親をはじめとして、男女ともにバランスよくかかわることが望ましいと考えます。父親の育児への参加を推進するほか、青少年に対しても将来親となる資質を育てる教育など、男女を対象に行うものとします。

Q.「男女ともに子育てに参加する」ための具体的事業計画は？  
(I)「子育ては楽しキャンペーン」で父親の育児参加を奨励(II)「公共施設の子育てバリアフリー化の推進」で男女のトイレにベビーシート設置の検討(III)「国・都制度の拡大と充実」で男女ともにゆとりを持って子育てに取り組める社会環境の整備充実を求める、などです。  
※ 問い合わせ 児童女性課 TEL(60)1852・FAX(51)0714

### むさしのヒューマン・ネットワークセンターでは

■むさしのヒューマン・ネットワークセンターが2周年を迎えました。昨年11月に行われた記念行事の詳細は、情報エクスプレス！欄に。  
■情報部の福澤雅子さんが紹介してくれた今回のテーマに関する本は、季刊「女も男も」2000年秋号  
自立・自尊の高齢社会へ  
労働教育センター  
老いても自立するということは？経済力、住まいの選択、自分で人生を決める気力。具体的な情報を取り入れ、老いに向けての設計作業にとりかかれば...と考えさせる。  
長生きしますかあしからず



藤原はる美著 潮文社  
ほとんどの親子が別居の欧米に比べ、日本では約6割が同居。いろいろな事情から茨城県にある開拓地、大洋村に住んだ親達のルポ。どのように厳しい現実を受け止め、乗り越えようとしているのか、示唆に富む。

■事業部 藤村女子高等学校の協力で「だれでもできるパソコン教室」全10回を入門編、初心者編の2回に分けて開催しました。延べ70名の募集に対して約600名の応募がありました。今年も9～10月に募集予定です。

東京大学大学院教授・上野千鶴子さんの講演会を開催します。「2001年おとこ解体新書、千鶴子の処方箋」いま、男達に何がおこっているのか、をテーマに昨年から続く2回目の講演会です。

\*日時 平成13年2月17日(土) 午後1時30分～午後3時30分

\*場所 武蔵野スイングホール2階(定員180名)

\*詳細は1月15日号市報で

■広報部 センターだよりVOL.6を昨年12月に発行しました。特集「こどもをめぐる井戸端会議・男性編」父親の子育てはいかに？紙面からは迷いや不安も垣間見えます。

■情報部 ホームページを4月に公開の予定です。必要な情報を収集し、データベース作りの基礎固めをしています。

■相談交流部 昨年11月に発足しました。相談業務のスタートに向け、準備を進めています。

※ 問い合わせ TEL・FAX(37)3410

## 共遊び

### 家族や友人を誘って、図書館へGO!

本を探しに、中央図書館へ出かけた。  
□1階のAV(視聴覚)コーナーには、映画のビデオや、ミュージックCDの貸し出しと、館内視聴用に、子ども向けや大人向け、映画・スポーツなどのレーザーディスクやDVDがある。図書館は本を借りたり、勉強したり、資料を収集するだけの場ではないようだ。  
□視覚・身体に障害のある方、高齢者の方へ、録音図書や貸し出しや、週刊誌・新作録音・点訳図書の情報テープを郵送で貸り出したり、対面朗読のサービスもある。「図書館朗読奉仕の会」  
「六実会」(点訳グループ)によるボランティア活動である。

一さむ〜い日は暖かな図書館に遊びに行こう！  
【吉祥寺図書館】集会室 □ (20) 1011  
『黄昏時の映画会』午後5時～  
□ 1月11日 バック・トゥ・ザ・フューチャー1  
25日 バック・トゥ・ザ・フューチャー2  
□ 2月1日 バック・トゥ・ザ・フューチャー3  
8日 フリント ストーン  
【中央図書館】視聴覚ホール □ (51) 5145  
『土曜の午後の映画会』午後2時30分～  
□ 1月27日 夢のチョコレート工場  
2月24日 ヤング・シャーロック・ピラミッドの謎  
【西部図書館】お話の部屋 □ (53) 1811  
『すずかけの映画会』午後2時30分～  
□ 未定(お問合わせください)  
●休館日は全館、毎週金曜日・第一水曜日  
□また、館内掲示板「土曜の午後の映画会」ポスターが目についた。児童向けに工作教室や人形劇、映画上映、季節の行事などの催しは知っていたが、大人も楽しめる映画会は嬉しい発見だった。  
□場所が図書館だけに、観賞後は原作本も読めるし、共通の話題も増えること間違いなし！  
(取材 本間則子)